

研究分野のキーワード：ケア，アジア，比較社会学，ライフコース

研究紹介

わたしの研究分野は、家族やジェンダー（社会的・文化的性）にかかわる社会学的研究です。今、取り組んでいる研究は大きく分けて二つです。一つは「ケア」についての研究です。人は誰しも、世話したりされたりして生きていますが、産まれる時、育つ時期、妊娠・出産する時期、高齢期には、他者の「ケア」を受ける程度が、大きくなります。この「ケア」についての比較社会的な研究、特にアジア諸社会の比較研究に取り組んでいます。「ケア」が必要な人に誰が、どのように「ケア」を行っているのか。「ケア」にかかわる規範はどのようなものか。「ケア」を支える社会的仕組みはどうなっているのか。「ケア」をされる人と「ケア」をする人の人権が共に保障される社会は、どうすれば実現可能か。これらの問いに答えることが課題です。2001年から2003年にかけてアジアの6社会（中国、タイ、シンガポール、台湾、韓国、日本）におけるケアの比較研究を共同研究者と一緒に行いました。その結果、中国やシンガポールのように、育児を支える多様なネットワークのある社会が存在する一方、日本や韓国のように子育ての担い手が母親に集中する社会もあること、日本や韓国のように女性が育児期に仕事を中断する人が多いM字型社会では、育児を支える「人の輪」の多様性が乏しいことが、わかりました。この調査からほぼ10年たち、2012年度からは、家族多様化と格差拡大が進行する中、「ケア」をめぐるネットワークや規範がどのように変わったのか、日本と韓国について明らかにすることを目指す調査プロジェクトを進めています。

二つ目はアジア諸社会における高齢者の方々への人生の聴き取りをもとに、ライフコースと歴史の重なりについて考える研究です。この研究テーマへの関心は、一つ目の研究を進める中で生まれました。2001年から2003年にかけて韓国の高齢者の方々に「ケア」の話を伺う中で、出産の介助をした男性の事例など、「伝統的な」韓国の男性像とは異なる男性の経験を知り、妊娠・出産、子育て、介護など、女性がかかわることが多い出来事に注目すると、歴史的時代と人生との関係について、これまででない理解ができるのではないかと考えたのです。2004年には韓国で、2007年から2009年にかけて共同研究者と協力して、中国、韓国、フィリピン、日本で、高齢者の方々から「人生の出来事」について聴き取る調査をしました。歴史的時代とライフコースの関連を考える実証研究は、アメリカや日本には多くの先行研究がありますが、アジアの複数の社会でほぼ同時に行われた調査研究は例がありません。文字を読まない人も多いこの世代の方々に、植民地時代の記憶も含め、人生の出来事をお聞きした貴重なデータを、中国や韓国の共同研究者と議論しながら整理しています。アジア諸社会で生きた人々のライフコースの中に位置づけた「日本人のライフコース」を再考することも、重要な課題です。

研究の成果を知っていただくことで、人と社会についての洞察が深まり、そのことを通して、多様な社会的・文化的背景をもつ人々が平和的な関係を築く一助になれば嬉しいです。